

安倍昭恵総理夫人、旭酒造(株)桜井博志社長をお招きし
農業の未来・酒造りの未来を語る

すばらしき日本の米!酒!講演会

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)



講師のお二人、森長岡市長ご夫婦、吉田康様(㈱ブルボン社長)、山田錦生産者が集合

3月2日、アオーレ長岡にて「世界にはばたけすばらしき日本の米!酒!講演会」を開催しました。

当日は山田錦生産者を始め、一般の方など併せて250名以上が参加。講演やパネルディスカッションを行いました。

講演では、「自身も無農薬栽培に取り組む安倍昭恵内閣総理大臣夫人が「昭恵の米づくり、酒づくり、夢づくり」と題し、体



旭酒造(株)桜井博志様による基調講演



ファーストレディ安倍昭恵様による特別講演

験を踏まえながら、女性目線でのこれからの農業の有り方を語られました。

基調講演として、日本酒【獺祭】で全国的に有名な、旭酒造(株)桜井博志代表取締役からもお話をいただきました。「米が良くないと良い酒ができない」と、新潟県産山田錦に対する熱い期待を感じることができました。

新潟産「山田錦」のブランド化を目指す!

「新潟県山田錦協議会」の設立決定!

統一した栽培基準・検査・品質管理

合同の研修会を開催

平成26年、新潟・山田錦栽培会が発足し、寒冷地の新潟県で山田錦が栽培できることを実

証する年度でした。平成27年は県内の各地で山田錦の栽培に取り組む生産者や団体があると噂されています。

新潟県産の山田錦をブランド化するには、統一した栽培や検査・品質管理が重要になります。各自バラバラの基準で栽培しているのは、市場の評価を落とすことが懸念されます。

そこで、県内の山田錦栽培の横断的な組織を作り、統一化を図ることに、(新潟県山田錦協議会)を設立することになりました。

協議会は、「新潟・山田錦栽培会」と「山田錦栽培研究会」が共同で運営を検討しています。

- ① 栽培基準の統一
- ② 研修会の開催
- ③ 米検査基準の統一
- ④ 品質管理

具体的には、

①栽培基準の統一は、指導者と農法、及び、肥料・資材の統一による品質の均一化。

富士通の「Akisai」の試験導入によるIT化への対応の研究。

②研修会は、座学・圃場研修・先進地視察の合同開催。

③米検査は、受験する検査機関でバラつきがでないように、6・8月の事前研修、10月の他県産との目合わせ、そして検査後の確認会を実施。又、その際に、残留農薬・放射線検査・DNA検査も視野に入れます。

④品質管理は、トレーサビリティや異物混入、異品種混入などの事故を未然に防ぐ方策を検討・実施します。

現在の山田錦の作付予想からすると、27年産から山田錦は生産過剰で価格の暴落や売残りが現実のものとなるのが、ほぼ確定しています。

厳しい現実の中で山田錦の評価を高め、蔵元から「新潟県山田錦協議会お墨付きの山田錦がほしい!」と言われることを目指してがんばりましょう!